

2020年度

学生による授業評価
よりよい授業を目指して

報 告 書

2022年1月

和洋女子大学

目次

1. はじめに	1
2. 授業評価実施概要	2
3. 総括	3
(1) 全学授業評価結果の概要	3
(2) 共通総合科目の課題	15
(3) 専門科目の課題	17
4. 資料	20

1. はじめに

授業評価アンケートは講義を受ける学生の声を聴き、教員が自身の授業を自己点検するために実施されている。また、教育成果の可視化や教育の内部質保証が大学で適切に行われているかが、公益社団法人大学基準協会の大学認証評価の重要な評価基準のひとつであり、その教育成果の可視化や教育の内部質保証の出発点、基本データとなるのが、授業評価アンケート結果である。

本報告書は2020年度に実施した授業評価アンケートの結果を取りまとめたものである。今年度はCOVID-19のパンデミックにより、従来の対面型の授業に加えて、新たに遠隔配信型授業と遠隔双方向授業が加わった。授業評価アンケートについても学生の自記式によるものではなく、オンラインでの回答を集計分析している。その点、従来の調査結果と異なる結果が随所にみられるが、緊急事態の状況下で教育内容の質と量の維持を目指した取り組みが学生にどのように届いたかを検証する良いチャンスとなっている。

感染は2022年1月の時点で第6波を迎えている。パンデミックの終息を願いつつ、遠隔においても授業の質を維持し、さらに質を高める努力を大学として今後も進めていくこととする。将来的には、遠隔と対面の両方を活用したハイフレックス授業が標準となることも想定しながら大学の教育の質の維持と向上を目指したい。本報告書が大学教育の新たな幕開けの第1歩になることを願っている。

和洋女子大学 学長
岸田宏司

2. 授業評価実施概要

授業評価は、前期開設科目については COVID-19 感染症対策のため、遠隔で開講された科目を対象にした独自調査を 2020 年 7 月 27 日（月）～8 月 31 日（月）の期間中に代替的に実施した。後期及び通年開設科目については、通常の対面授業が限定的に再開されたため、従来どおりの調査を 2021 年 1 月 18 日（月）～2 月 28 日（日）の期間中に実施した。

後期・通年の開設授業科目は、後期 770 科目、通年 149 科目、後期集中 26 科目、通年集中 94 科目で、合計 1,039 科目である。このうち授業評価対象科目は、佐倉セミナー科目、学外実習科目、集中科目、大学院科目、同時開講科目、読替科目、受講者数 10 人以下の科目を除いた合計 557 科目で、全開講科目の 53.6%に相当する。ただし、この対象科目のうち後期 48 科目、通年 9 科目が未実施となったため、全開講科目のうち授業評価を実施した割合は 48.1%である。

評価は、manaba courseを用いたWEB回答方式のアンケートを実施し、各授業科目について評価と自由記述を学生に入力させた。アンケートの設問は巻末「授業アンケート」のとおりである。主に教授方法・スキルに関する評価、授業準則・秩序に関する評価、知的刺激や理解度関連達成度に関する評価、主体的学修に関する評価、教員の熱意に関する評価、総合的満足度、学生自身の授業への参加度に関する自己評価などの項目から構成されている。なお、アンケートは5段階評価として設計されている。5は「強く思う」（Q24は「とても満足」）、4は「そう思う」（Q24は「満足」）、3は「どちらでもない」、2は「そう思わない」（Q24は「やや不満足」）、1は「全く思わない」（Q24は「不満」）、0は「該当しない・答えたくない」を意味している。

調査は、実施期間中の各授業の終了時のほぼ 15 分程度を利用し、原則として授業科目担当教員がアンケートの指示を出し、教員が教室を退室した後、スマートフォン等で回答入力を学生自身が行なった。遠隔授業で開講された科目については、最終授業時または最終課題を提示した時に manaba course の各科目コース内で授業科目担当教員が指示を掲載し、指示から回答までに 1 週間程度の猶予を設け実施した。アンケートデータは、業者に委託して集計し、授業科目ごとの結果は科目担当教員に通知される。各教員は、授業評価の結果を各自で検討し、その感想・今後の授業改善への抱負などについて、全担当科目を総括して A4 版 1 枚以内に所感を作成した。この文書はネットワークにて教職員が閲覧することができ、学内、相互の授業改善の工夫等を共有している。

3. 総括

2020年度（令和2年度）は、COVID-19の感染拡大によって前期には授業全体が大きく設計を変更せざるを得ない状況になり、従来の授業評価アンケートをそのまま使用できない状況であった。前期授業の殆どがオンライン授業のためアンケート項目の検討をおこない実施した。後期には授業方法が、面接授業、遠隔オンデマンド、遠隔リアルタイム、オンラインと対面の組み合わせといったハイブリッドな授業展開となった。授業評価アンケートの実施にあたり、前期においては遠隔授業評価表を用い、後期は従来の評価項目を踏襲しハイブリッド授業に対応する項目に編集し直しておこなった（表1参照）。

評価項目は、2019年度まで使用した調査項目19項目をベースに加除をおこない24項目で実施した。「教員の板書や図の見やすさ」「教員の声の聞き取りやすさ」「私語への対応」を削除し、修正を加えた項目は、Q.6「教材（配付資料、動画、音声、パワーポイント）が理解に役立った」、Q.11「開始・終了時間が適切」を「運営時間、学習量が適切だった」へ、Q.15「予習・復習の時間」を「自己学習の時間を確保した」へ、Q.16「試験に積極的に取り組んだ」を「試験や課題に積極的に取り組んだ」へと修正した。

今年度は大学の教育の質保証を可視化するために、また、学生自身が4年間の学びの目標となる大学のディプロマポリシーを意識するよう評価項目に示し教育の中でも中心を占める授業がそれに答えられているのかを訊いた。質問項目は、「Q.18 学びの目標達成に近づいた」「Q.19 自分を知り誇りを持つ力が向上した」「Q.20 基礎学力と文章力が向上した」「Q.21 人を理解し自分を表現する力が向上した」「Q.22 課題を解決する力が向上した」「Q.23 社会に役立つ専門力が向上した」について回答してもらった。自己目標の達成に授業がいかに寄与したかについて聞いている。

例年、授業評価は経年変化について検証しているが2020年度評価は項目に加除があり全て変化を捉えることはできない。

(1) 全学授業評価結果の概要

以下に評価結果の全体概要を示す。個々の授業についての評価結果を全体としてまとめたものが[表1]である。また、授業形態別の評価結果を表1①～⑤に示した。

全体	履修者数	25109名
	回収数	13654名
	回収率	54%

	対象のみ	対象と 連携	連携/ア ルタイム あり	連携オン デマンド のみ	その他
Q1. 授業受講方法	58	8027	2556	1912	1101

項目別回答分布(人数と平均値)	5	4	3	2	1	無回答	全体平均
Q2. シラバスに沿っていた	4440	8300	784	76	17	37	4.25
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	5372	7195	843	153	30	61	4.30
Q4. 新しい知識・技術を学べた	6143	6573	626	103	24	85	4.39
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	4206	6426	2155	515	132	220	4.05
Q6. 教材が理解に役立った	5338	6921	1028	169	46	152	4.28
Q7. 説明がわかりやすかった	4585	6865	1633	371	101	99	4.14
Q8. 質問できる時間や環境があった	4426	6942	1731	290	61	204	4.14
Q9. 質問への対応が適切だった	4186	6297	2135	166	62	808	4.12
Q10. 出席確認の方法が適切だった	5483	6700	1077	256	50	88	4.28
Q11. 運営時間、学習量が適切だった	4232	7544	1331	401	77	69	4.14
Q12. 教員の熟慮を感じた	5339	6692	1312	165	54	92	4.26
Q13. 積極的に意見や質問をした	2625	4350	4071	1405	502	701	3.56
Q14. よく出席・参加した	6685	4285	496	87	12	89	4.59
Q15. 自己学習の時間を確保した	3425	6850	2493	582	114	190	3.96
Q16. 試験や課題に積極的に取り組んだ	5921	6541	934	127	16	115	4.35
Q17. さらに勉強したくなった	4347	6940	1868	303	87	109	4.12
Q18. 学びの目標達成に近づいた	4286	7032	1883	241	75	137	4.13
Q19. 自分を知り誇りを持つ力が向上した	3100	6121	3412	581	135	305	3.86
Q20. 基礎学力と文章力が向上した	3589	6962	2407	362	88	246	4.01
Q21. 人を理解し自分を表現する力が向上した	3370	6396	2962	495	117	314	3.93
Q22. 課題を解決する力が向上した	3964	7081	2079	228	77	225	4.09
Q23. 社会に役立つ専門力が向上した	4440	6898	1897	193	60	166	4.15
Q24. 授業の総合満足度	5065	6891	1243	291	93	71	4.22

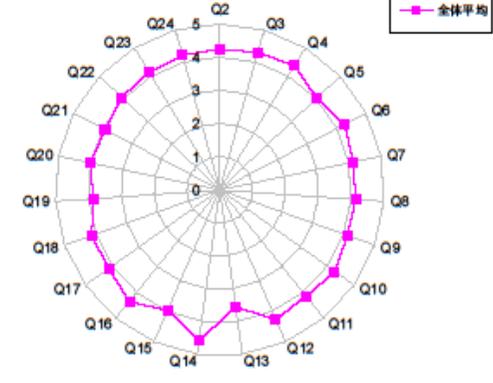
【Q14】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	5257	6877	646	124	24	42	4.33
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	4123	6189	1892	460	110	196	4.08
Q6. 教材が理解に役立った	5219	6626	821	139	37	128	4.31
Q7. 説明がわかりやすかった	4480	6607	1398	323	85	77	4.17

【Q14】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	96	281	186	26	4	2	3.74
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	69	202	250	48	16	10	3.44
Q6. 教材が理解に役立った	103	252	200	26	5	9	3.72
Q7. 説明がわかりやすかった	86	227	223	41	11	7	3.57

<評価レーダーチャート>



<評価帯グラフ>

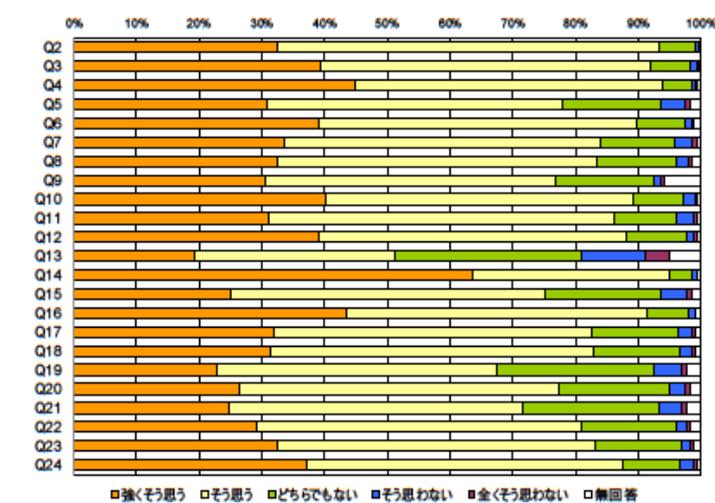


表1 全体

対面授業のみ

対面授業のみ	
Q1. 授業開講方法	58
項目別回答分布(人数と平均値)	
	5 4 3 2 1 無回答 平均 全体平均
Q2. シラバスに沿っていた	18 31 8 0 0 0 1 4.18 4.25
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	26 26 5 0 0 0 1 4.37 4.30
Q4. 新しい知識・技術を学べた	30 23 3 0 0 0 2 4.48 4.39
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	14 33 6 2 3 0 3.91 4.05
Q6. 教材が理解に役立った	22 26 6 1 1 2 4.20 4.28
Q7. 説明がわかりやすかった	17 30 8 1 1 1 4.07 4.14
Q8. 質問できる時間や環境があった	17 31 8 1 0 1 4.12 4.14
Q9. 質問への対応が適切だった	17 26 11 0 0 4 4.11 4.12
Q10. 出席確認の方法が適切だった	26 21 7 2 1 1 4.21 4.28
Q11. 運営時間、学習量が適切だった	19 26 11 1 0 1 4.11 4.14
Q12. 教員の熱意を感じた	19 28 9 1 0 1 4.14 4.26
Q13. 積極的に意見や質問をした	9 24 18 3 1 3 3.67 3.56
Q14. よく出席・参加した	42 12 2 1 0 1 4.67 4.59
Q15. 自己学習の時間を確保した	15 31 8 3 1 0 3.97 3.96
Q16. 試験や課題に積極的に取り組んだ	32 20 3 1 1 1 4.42 4.35
Q17. さらに勉強したくなった	22 24 10 1 1 0 4.12 4.12
Q18. 学びの目標達成に近づいた	19 29 6 1 1 2 4.14 4.13
Q19. 自分を知り誇りを持つ力が向上した	17 27 11 1 1 1 4.02 3.86
Q20. 基礎学力と文章力が向上した	20 26 9 1 2 0 4.05 4.01
Q21. 人を理解し自分を表現する力が向上した	17 30 7 3 0 1 4.07 3.93
Q22. 課題を解決する力が向上した	20 30 7 1 0 0 4.19 4.09
Q23. 社会に役立つ専門力が向上した	20 26 9 1 2 0 4.05 4.15
Q24. 授業の総合満足度	22 27 6 2 1 0 4.16 4.22

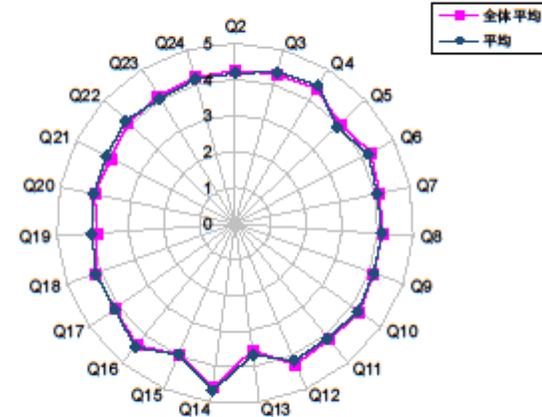
【Q14】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	25	26	3	0	0	0	4.41
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	13	33	4	2	2	0	3.98
Q6. 教材が理解に役立った	21	26	4	1	0	2	4.29
Q7. 説明がわかりやすかった	16	30	6	1	1	0	4.09

【Q14】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	0	0	2	0	0	1	3.00
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	0	0	2	0	1	0	2.33
Q6. 教材が理解に役立った	0	0	2	1	0	0	2.67
Q7. 説明がわかりやすかった	0	0	2	1	0	0	2.67

<評価レーダーチャート>



<評価棒グラフ>

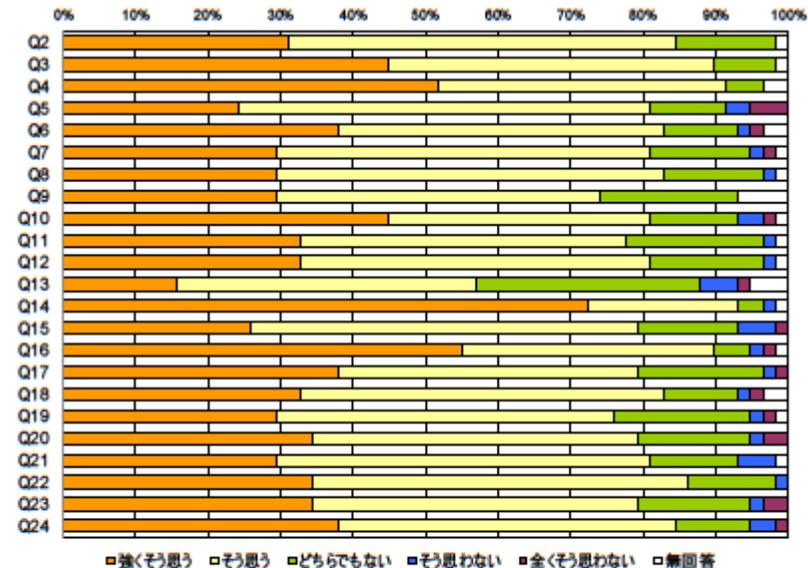


表 1 ①対面授業のみ

対面と遠隔授業の併用

対面と遠隔授業の併用	
Q1. 授業開講方法	8027
項目別回答分布(人数と平均値)	
	5 4 3 2 1 無回答 平均 全体平均
Q2. シラバスに沿っていた	2555 4960 446 35 10 21 4.25 4.25
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	2965 4390 523 97 19 33 4.27 4.30
Q4. 新しい知識・技術を学べた	3400 4112 396 68 11 40 4.35 4.39
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	1946 3858 1614 361 81 167 3.92 4.05
Q6. 教材が理解に役立った	3198 4081 561 99 26 62 4.30 4.28
Q7. 説明がわかりやすかった	2541 4095 1048 219 60 64 4.11 4.14
Q8. 質問できる時間や環境があった	2083 4297 1266 181 34 166 4.04 4.14
Q9. 質問への対応が適切だった	1966 3695 1588 90 31 657 4.01 4.12
Q10. 出席確認の方法が適切だった	2962 4123 689 161 34 58 4.23 4.28
Q11. 運営時間、学習量が適切だった	2325 4591 811 219 40 41 4.12 4.14
Q12. 教員の熱意を感じた	2877 4079 872 111 35 53 4.21 4.26
Q13. 積極的に意見や質問をした	1256 2269 2664 933 373 532 3.41 3.56
Q14. よく出席・参加した	4828 2762 324 61 7 45 4.55 4.59
Q15. 自己学習の時間を確保した	1756 4106 1589 399 80 97 3.89 3.96
Q16. 試験や課題に積極的に取り組んだ	3293 3989 598 80 12 55 4.31 4.35
Q17. さらに勉強したくなった	2410 4174 1135 190 56 62 4.09 4.12
Q18. 学びの目標達成に近づいた	2315 4192 1246 153 49 72 4.08 4.13
Q19. 自分を知り誇りを持つ力が向上した	1669 3627 2111 352 90 178 3.82 3.86
Q20. 基礎学力と文章力が向上した	2011 4176 1442 211 55 132 4.00 4.01
Q21. 人を理解し自分を表現する力が向上した	1829 3751 1879 313 77 178 3.88 3.93
Q22. 課題を解決する力が向上した	2184 4193 1318 146 55 131 4.05 4.09
Q23. 社会に役立つ専門力が向上した	2509 4094 1170 119 36 99 4.13 4.15
Q24. 授業の総合満足度	2713 4240 808 175 44 47 4.18 4.22

【Q14】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	2901	4184	388	75	16	26	4.31
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	1913	3719	1423	320	64	151	3.95
Q6. 教材が理解に役立った	3127	3894	422	80	20	47	4.33
Q7. 説明がわかりやすかった	2488	3931	884	187	49	51	4.14

【Q14】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	53	188	129	20	1	1	3.70
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	26	125	183	37	11	10	3.31
Q6. 教材が理解に役立った	63	166	136	17	2	8	3.71
Q7. 説明がわかりやすかった	42	150	158	31	6	5	3.49

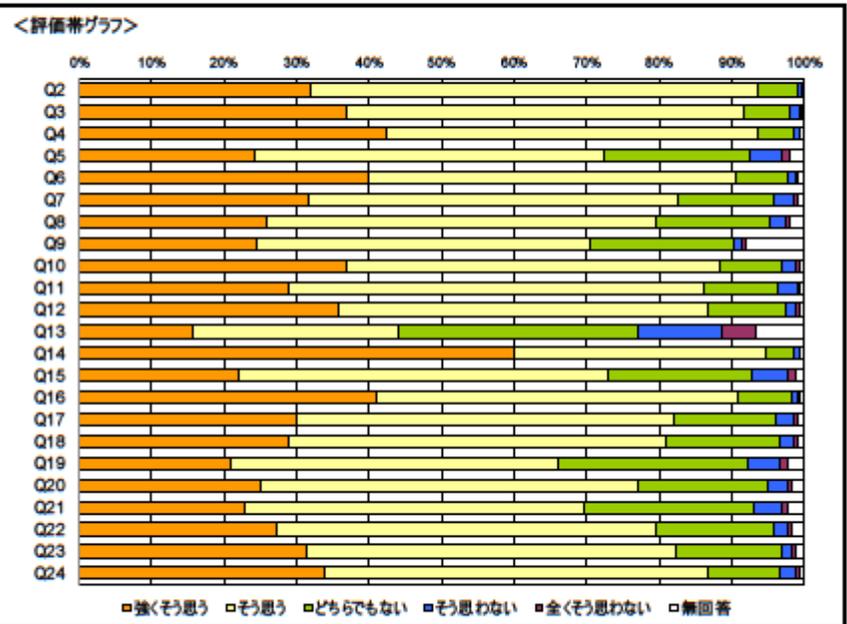
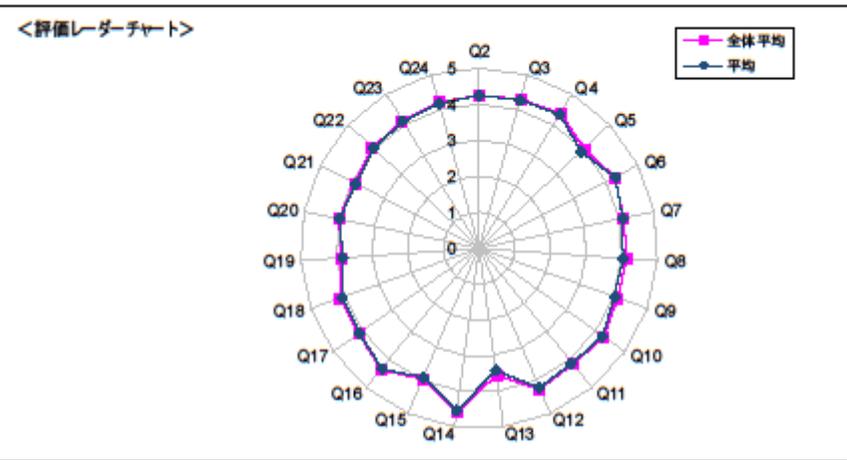


表1 ②対面と遠隔授業の併用

遠隔授業のみリアルタイムあり

遠隔授業のみリアルタイムあり	
Q1. 授業開講方法	2556
項目別回答分布(人数と平均値)	
	5 4 3 2 1 無回答 平均 全体平均
Q2. シラバスに沿っていた	840 1524 163 19 5 5 4.24 4.25
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	990 1332 180 36 9 9 4.28 4.30
Q4. 新しい知識・技術を学べた	1090 1270 144 22 10 20 4.34 4.39
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	1047 1124 267 75 27 16 4.22 4.05
Q6. 教材が理解に役立った	964 1271 225 42 15 39 4.24 4.28
Q7. 説明がわかりやすかった	925 1231 281 82 26 11 4.16 4.14
Q8. 質問できる時間や環境があった	1042 1203 223 60 17 11 4.25 4.14
Q9. 質問への対応が適切だった	972 1167 276 41 22 78 4.22 4.12
Q10. 出席確認の方法が適切だった	1070 1163 237 58 11 17 4.27 4.28
Q11. 運営時間、学習量が適切だった	850 1337 252 82 25 10 4.14 4.14
Q12. 教員の熱意を感じた	1155 1136 214 23 10 18 4.34 4.26
Q13. 積極的に意見や質問をした	599 913 663 237 64 80 3.71 3.56
Q14. よく出席・参加した	1745 686 91 14 1 19 4.64 4.59
Q15. 自己学習の時間を確保した	712 1273 439 88 18 26 4.02 3.96
Q16. 試験や課題に積極的に取り組んだ	1149 1162 193 27 2 23 4.35 4.35
Q17. さらに勉強したくなった	800 1243 407 71 23 12 4.07 4.12
Q18. 学びの目標達成に近づいた	772 1289 389 56 21 29 4.08 4.13
Q19. 自分を知り誇りを持つ力が向上した	618 1150 602 103 29 54 3.89 3.86
Q20. 基礎学力と文章力が向上した	718 1327 391 63 21 36 4.05 4.01
Q21. 人を理解し自分を表現する力が向上した	691 1247 465 74 23 56 4.00 3.93
Q22. 課題を解決する力が向上した	758 1302 388 48 17 43 4.09 4.09
Q23. 社会に役立つ専門力が向上した	806 1287 374 43 17 29 4.12 4.15
Q24. 授業の総合満足度	1031 1185 227 67 35 11 4.22 4.22

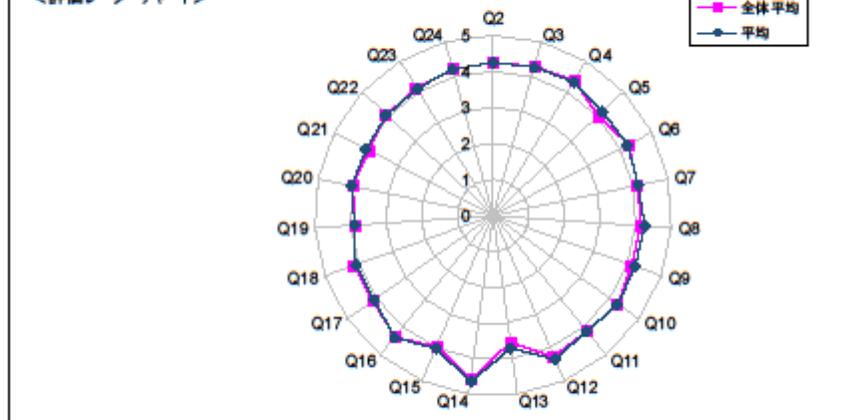
【Q14】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	969	1283	136	31	6	6	4.31
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	1029	1081	219	65	24	13	4.25
Q6. 教材が理解に役立った	944	1225	178	36	13	35	4.27
Q7. 説明がわかりやすかった	905	1192	234	70	23	7	4.19

【Q14】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	17	42	39	5	3	0	3.61
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	15	36	46	8	3	0	3.48
Q6. 教材が理解に役立った	17	39	44	4	2	0	3.61
Q7. 説明がわかりやすかった	16	35	44	7	3	1	3.51

<評価レーダーチャート>



<評価棒グラフ>

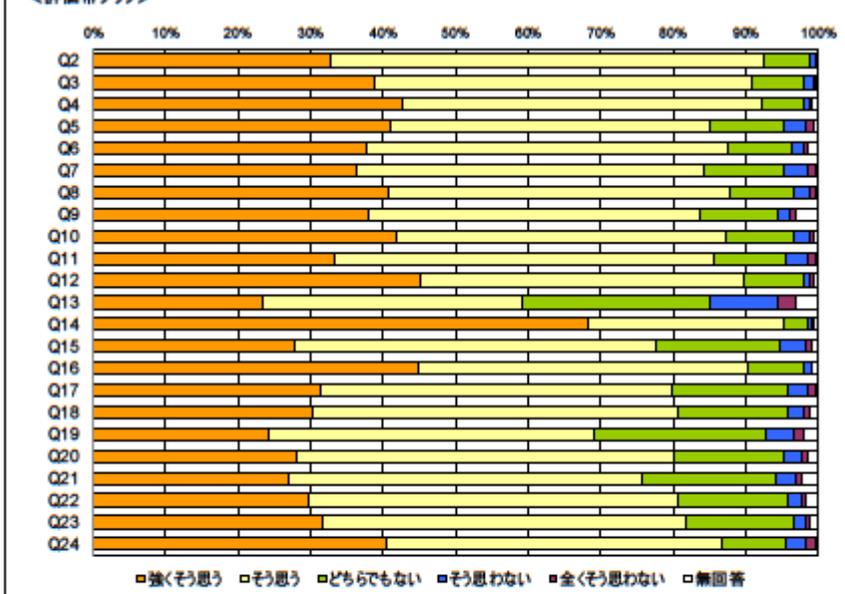


表1 ③遠隔授業のみリアルタイムあり

遠隔授業のみオンデマンドのみ

遠隔授業のみオンデマンドのみ								
Q1. 授業開講方法	1912							
項目別回答分布(人数と平均値)								
	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
Q2. シラバスに沿っていた	596	1164	127	17	1	7	4.23	4.25
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	841	940	102	16	1	12	4.37	4.30
Q4. 新しい知識・技術を学べた	1001	817	65	10	2	17	4.48	4.39
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	754	898	182	42	15	21	4.23	4.05
Q6. 教材が理解に役立った	734	985	147	19	1	26	4.29	4.28
Q7. 説明がわかりやすかった	754	898	182	42	15	21	4.23	4.14
Q8. 質問できる時間や環境があった	808	892	160	29	5	18	4.30	4.14
Q9. 質問への対応が適切だった	752	894	188	25	7	46	4.26	4.12
Q10. 出席確認の方法が適切だった	843	933	101	29	1	5	4.36	4.28
Q11. 運営時間、学習量が適切だった	612	1041	181	59	5	14	4.16	4.14
Q12. 教員の熱意を感じた	798	914	156	24	8	12	4.30	4.26
Q13. 積極的に意見や質問をした	435	714	503	156	50	54	3.71	3.56
Q14. よく出席・参加した	1307	534	49	3	2	17	4.66	4.59
Q15. 自己学習の時間を確保した	591	941	271	61	10	38	4.09	3.96
Q16. 試験や課題に積極的に取り組んだ	927	869	82	10	1	23	4.44	4.35
Q17. さらに勉強したくなった	692	948	216	25	5	26	4.22	4.12
Q18. 学びの目標達成に近づいた	735	967	167	21	2	20	4.27	4.13
Q19. 自分を知り誇りを持つ力が向上した	475	845	458	82	9	43	3.91	3.86
Q20. 基礎学力と文章力が向上した	528	918	360	55	5	46	4.02	4.01
Q21. 人を理解し自分を表現する力が向上した	518	903	371	68	8	44	3.99	3.93
Q22. 課題を解決する力が向上した	618	1005	234	24	4	27	4.17	4.09
Q23. 社会に役立つ専門力が向上した	695	963	206	24	4	20	4.23	4.15
Q24. 授業の総合満足度	783	936	145	33	8	7	4.29	4.22

【Q14】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	827	900	91	14	1	8	4.38
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	734	866	168	40	15	18	4.24
Q6. 教材が理解に役立った	722	946	133	15	1	24	4.31
Q7. 説明がわかりやすかった	671	930	181	44	5	10	4.21

【Q14】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	13	29	11	1	0	0	4.00
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	18	23	11	2	0	0	4.06
Q6. 教材が理解に役立った	10	27	13	4	0	0	3.80
Q7. 説明がわかりやすかった	14	27	11	2	0	0	3.98

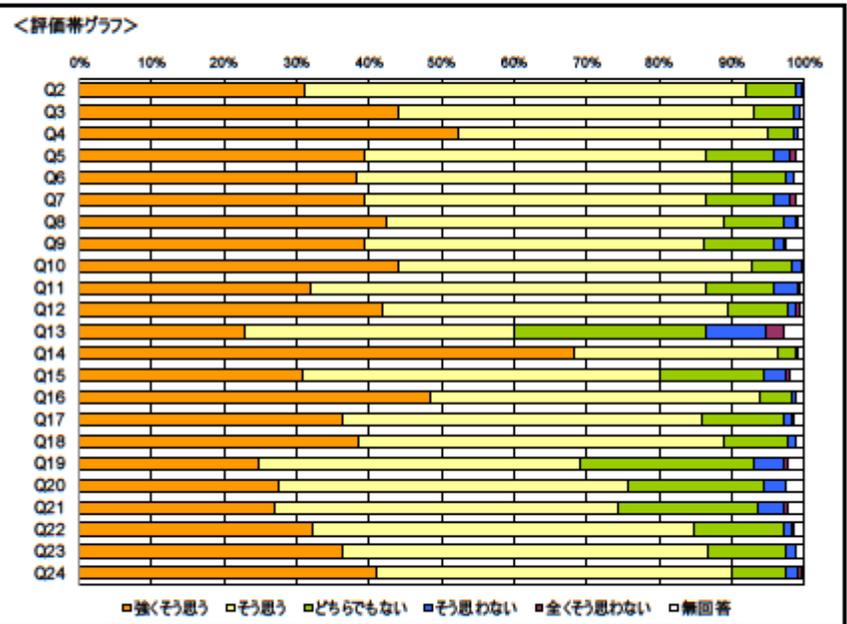
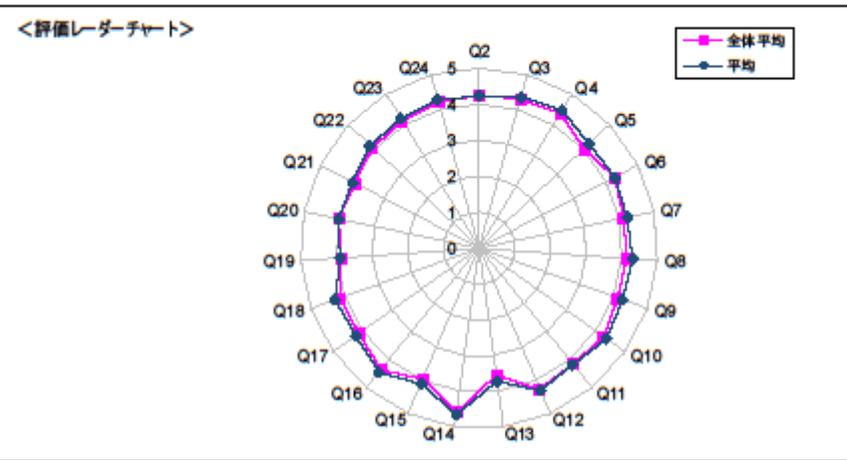


表1 ④遠隔授業のみオンデマンドのみ

その他

		その他						
Q1. 授業開講方法		1101						
項目別回答分布(人数と平均値)								
	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
Q2. シラバスに沿っていた	431	621	40	5	1	3	4.34	4.25
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	550	507	33	4	1	6	4.46	4.30
Q4. 新しい知識・技術を学べた	622	451	18	3	1	6	4.54	4.39
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	445	513	86	35	6	16	4.25	4.05
Q6. 教材が理解に役立った	420	558	89	8	3	23	4.28	4.28
Q7. 説明がわかりやすかった	416	541	102	22	9	11	4.22	4.14
Q8. 質問できる時間や環境があった	476	519	74	19	5	8	4.32	4.14
Q9. 質問への対応が適切だった	479	515	72	10	2	23	4.35	4.12
Q10. 出席確認の方法が適切だった	582	460	43	6	3	7	4.47	4.28
Q11. 運営時間、学習量が適切だった	426	549	76	40	7	3	4.23	4.14
Q12. 教員の熱意を感じた	490	535	61	6	1	8	4.38	4.26
Q13. 積極的に意見や質問をした	326	430	223	76	14	32	3.91	3.56
Q14. よく出席・参加した	763	291	30	8	2	7	4.65	4.59
Q15. 自己学習の時間を確保した	351	499	186	31	5	29	4.08	3.96
Q16. 試験や課題に積極的に取り組んだ	520	501	58	9	0	13	4.41	4.35
Q17. さらに勉強したくなった	423	551	100	16	2	9	4.26	4.12
Q18. 学びの目標達成に近づいた	445	555	75	10	2	14	4.32	4.13
Q19. 自分を知り誇りを持つ力が向上した	321	472	230	43	6	29	3.99	3.86
Q20. 基礎学力と文章力が向上した	312	515	205	32	5	32	4.03	4.01
Q21. 人を理解し自分を表現する力が向上した	315	465	240	27	9	35	3.99	3.93
Q22. 課題を解決する力が向上した	384	551	132	9	1	24	4.21	4.09
Q23. 社会に役立つ専門力が向上した	410	528	138	6	1	18	4.24	4.15
Q24. 授業の総合満足度	516	503	57	14	5	6	4.38	4.22

【Q14】で授業への出席率の高い群(5・4)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	535	484	28	4	1	2	4.47
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	434	490	78	33	5	14	4.26
Q6. 教材が理解に役立った	405	535	84	7	3	20	4.29
Q7. 説明がわかりやすかった	400	524	93	21	8	8	4.23

【Q14】で授業への出席率の低い群(3・2・1)の回答分布

	5	4	3	2	1	無回答	平均
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	13	22	5	0	0	0	4.20
Q5. 理解度に合わせて授業を進めた	10	19	8	2	1	0	3.88
Q6. 教材が理解に役立った	13	20	5	1	0	1	4.15
Q7. 説明がわかりやすかった	14	15	8	1	1	1	4.03

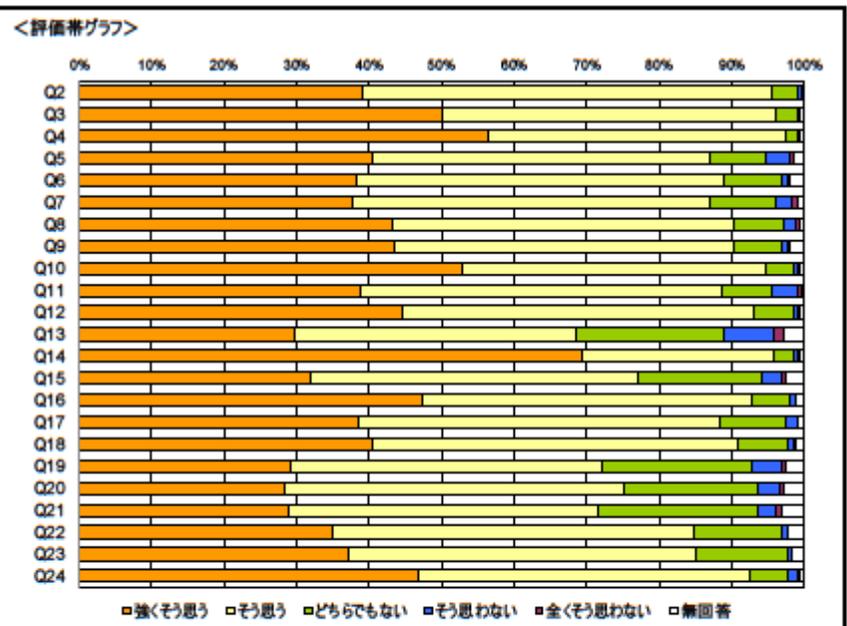
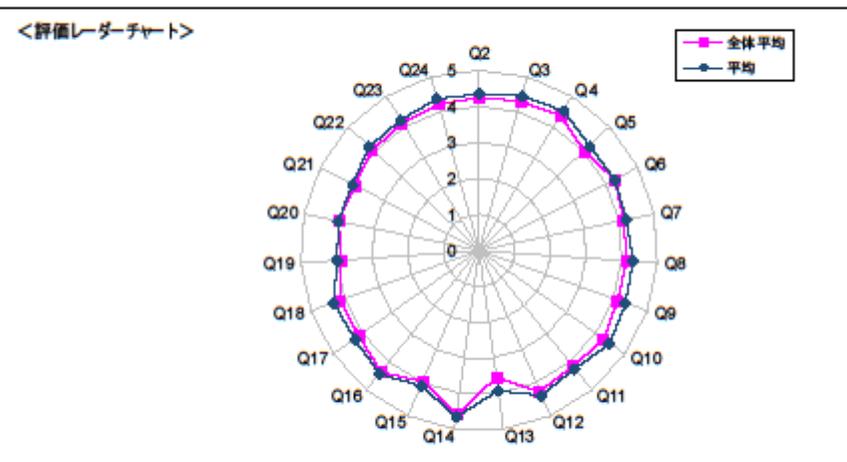


表1 ⑤その他

調査結果では、対象科目の履修者数は25,109名、回収数13,654名、回収率54%を示し前回調査（2019年度）の回収率85%に比し大きく低率であった。はじめに、今期の授業形態は、「対面のみ」0.41%、「対面＋遠隔」58.8%、「遠隔リアルタイムあり」18.7%、「遠隔オンデマンドのみ」14%、「その他」8.1%の比率であった。「対面」以外の何らかの遠隔授業が99.6%であったと言える（表1①～⑤）。今回の授業評価は、遠隔授業が「授業改善」につながったかと言うことが推測できる。

全質問項目 Q.2～Q.24 は、評価値(3.56)から (4.59)の範囲内にあり前年度比では、項目により増減が見られる。特に顕著な違いは「Q.15 自己学習の時間を確保した」がここ数年は2を下回っていたが（2019年度は1.99）、20年度は(3.96)と大きく上昇している。

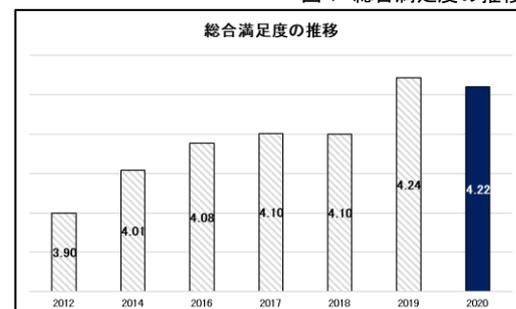
「Q.14 よく出席・参加した」については、「強くそう思う」「そう思う」を合算すると95%になり評価値(4.59)と高い評価である。それに反して「Q.13 積極的に意見や質問をした」は例年と変化はなく2019年度(3.58)、2020年度 (3.56)と低値である。

2020年度の総評としては、自己学習の時間が大きく伸び、出席参加も良いが「積極的に意見を言ったり質問をすることはしない」という従来 of 学生像に変化はなかった。

「Q.24 授業の総合的満足度」は、2019年度の平均評価(4.24)から(4.22)へと(0.02)ポイント下降したが、大きな低下ではなく遠隔授業に対する学生の満足度は下がっていないと考える。図1に2012年度～2020年度までの推移を示す。

遠隔授業で配慮しなければならないことは、課題の多さ、理解度に合わせた授業の進め方、質問や意見に対応する、学生・教員のコミュニケーション、わかりやすい資料の工夫、オンライン環境やテクニック、成績評価の問題等があるが、それらは次項にまとめた。

図1 総合満足度の推移



1) 教員の授業設計と運営について

教員の授業設計と運営についての質問項目は、Q.2からQ.12である。

①知的刺激

学生の知的好奇心を刺激し学習に取り組む意欲を起こさせる教授内容については、「Q.3 内容は知的刺激に富んでいた」(4.3)、「Q.4 新しい知識・技術を学べた」(4.39)、「Q.6 教材(配付資料、動画、音声、パワーポイント)が理解に役立った」(4.28)、「Q.11 運営時間、学習量が適切だった」(4.14)と概ね高い評価であった。知的刺激によって「Q.17 さらに勉強したくなった」についての評価平均値は前回(4.03)よりやや高くはなったものの(4.13)にとどまった。そのことから、授業中に受けた知的刺激が学習意欲を十分に引き出すまでには至っていないように思われる。

②方法・スキル

教授方法・スキルについての質問項目はQ. 2、Q. 5 からQ. 10 までである。

それぞれの評価平均値を見てみると、「Q. 5 学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた」(4. 05)であり、年々わずかに上昇していたものの2019年度(4. 08)より減じた。

「Q. 6 教材が理解に役立った(4. 28)」、「Q. 7 説明がわかりやすかった」(4. 14)であり、評価されているように考えられる。また、授業方法によっては課題ともいえる「Q. 12 教員の熱意を感じた(4. 26)」、「Q. 8 質問できる時間や環境があった(4. 14)」、「Q. 9 質問への対応が適切だった」(4. 12)、「Q. 10 出席確認の方法が適切だった(4. 28)」と概ね評価されている。教員が授業スキルの向上を意識していることが窺える。

③授業の進め方

教員の授業の進め方について学生がどのように評価しているかは、2つの質問項目の評価平均値、「Q. 2 シラバスに沿っていた」4. 25(2019年度は4. 33)、「Q. 11 運営時間、学習量が適切だった」(4. 14)と、おおむね評価されていると推測できる。

④主体的な学びの促進

大学での学びにおいては学生が自ら学び、考える姿勢を修得することが求められる。しかし、大学のユニバーサル化が進むにつれて、目的意識が希薄で主体的に学ぼうとする学生が少なくなったと指摘されることが多くなった。今回のアンケート調査では受講者の主体的な学びを引き出す質問項目と考えられるのは、「Q3. 知的刺激に富んでいた」(4. 30)、「Q9. 質問に適切に対応した」(4. 12)、「Q. 13 積極的に意見や質問をした」(3. 56)であり前年度比において僅かに低下していたがおおむね主体性の喚起はできていると思われる。主体的な学びに欠かせない自己学習の時間であるが従来の調査では、評価平均2にとどかなかつたが2020年度は、「Q15. 自己学習時間」(3. 96)であり飛躍的に高くなっている。これが学生の主体的な学びに直結しているかは判断できないが考慮する一因にはなると考える。

主体的な学びを導く学習環境のひとつの要素として、授業において教員の熱意が受講者に感じられるかどうかがある。担当する教員の熱の入った授業は、受講者にとって強い刺激を与えるものであり、教員にとっても学生の「Q12. 教員の熱意が感じられた」かどうかは、最も関心を払わなければならない質問項目であろう。この点で、「Q12. 教員の熱意を感じた」の評価値は2018年(4. 26)、2019年度(4. 31)と上昇してきたが2020年度は(4. 26)であった。対面以外の授業形式では難しい課題であるが総じて肯定的な評価が下されていると見なすことができる。

2)出席率の高低群と授業評価について

次に授業への出席・参加の高低による授業評価の差について見てみる。対比項目は「Q.3 内容は知的刺激に富んでいた」「Q.5 理解度に合わせて授業を進めた」「Q.6 教材(配付資料、動画、音声、パワーポイント)が理解に役立った」「Q.7 説明がわかりやすかった」の4項目である。結果は、4項目すべてにおいて出席参加率の高い学生は教員の授業方法スキルについて高い評価を下している。また、Q.5及びQ.7は遠隔授業での難しさもあるが昨年に比べ若干低下していた。出席・参加率の低い学生は4項目すべて平均評価4にとどかず昨年度比でもすべて低下している。

授業への出席・参加率の高い学生において「Q.3 知的刺激に富んでいた」は出席率の低い群(3.74)に比し高い(4.33)。それは主体的な学びへと結びつきやすいと考えられるのに対して、出席・参加率の低い学生では、主体的な学びをはじめ、知識定着の学びにつながっていないように思われる。本学では「きめ細かな指導」を教育の柱のひとつとして掲げ、出欠調査等を通じて欠席しがちな学生への指導を継続して行ってきた。また遠隔オンデマンド等では参加状況を把握し参加の悪い学生には個別に参加を促している。遠隔授業は学生にとって出席しやすいという利点もあるといわれるが本学での出席改善につながっているのかは課題である。出席・参加については次項(3)学科別集計を参照のこと。

表2 出席率による評価

評価項目	出席・参加率 が高い群	出席・参加率 が低い群	差
Q3.内容は知的刺激に富んでいた	4.33	3.74	0.59
Q5.理解度に合わせて授業を進めた	4.08	3.44	0.64
Q6.教材(配付資料、動画、音声、パワーポイント)が理解に役立った	4.31	3.72	0.59
Q7.説明がわかりやすかった	4.17	3.57	0.6

3) 受講者の状況別授業満足度

①受講者数との関係

受講者数と総合的満足度の関係を明らかにするため、500科目について受講人数区分毎に満足度の平均点を[表3]に示した。この満足度評価については、学習効果を学生自身の「満足度」で測定することの意味について議論が必要なことに加え、今回の解析に関しても探索的なものであり、最終的な評価をするためには別途詳細な解析が必要ではあると考える。

20人未満のクラスにおいて、満足度が平均値を上回り、30人のクラスでは、全体の平均値に収束している。一方、50~150人以上の満足度の平均値は、30人以下のクラスに比しやや下降(4.12~4.19)している。

表3 受講者数と満足度

受講者数	11人～	20人～	30人～	50人～	100人～	150人～	合計平均
科目数	62	93	159	142	38	6	500
満足度	4.31	4.35	4.24	4.19	4.12	4.17	4.24 [*]

※…満足度は小数点第3位以下を四捨五入としているため、それぞれの合計が必ずしも※とは一致しない。

特に、受講生が100人以上の科目はそれ以下の科目よりも対象となる科目数が少ないため、単純に比較するには注意が必要である。もっとも、受講人数の多いクラスでは、学生の満足度いかに関わらず、きめの細かい指導ができにくくなることも事実であり、授業における指導の有効性といった観点から見れば、受講者数は少ない方が好ましいといえる。受講者数が50人を超えた場合、むしろクラスサイズそのものよりも、教員の講義内容や教授法によって満足度が左右される可能性も考慮する必要がある。

これまでの、歴年授業評価において、満足度に与える因子は、受講者数や次に述べる教員の年齢・職位、学生の出席率といった単純な指標では説明できない可能性が高く、授業評価結果については、個別の授業の特性を考慮したミクロな視点も欠かせないと思われる。

2020年度調査は、例年に比し科目数や授業形態に大きな違いがあった。それらの値を単純に比較することは困難である。

②教員の職位・年齢との関係（表4）

教員の職位・年齢と満足度との関係は [表3] のとおりである。単純に全体平均値だけを見ると、教員の年齢が低い程平均値が高く（39才以下4.33）、年齢が高くなるほど満足度が低くなる傾向がある。（職位と年齢には相関があるので職位で区分することに意味はない。）

表4 職位・年齢と満足度

	教授	准教授	専任講師/助教	非常勤	全体
～ 39 歳		4.48	4.39	4.24	4.33
40 歳 ～	4.19	4.21	4.20	4.22	4.21
50 歳 ～	4.15	4.11	4.37	4.31	4.23
60 歳 ～	4.23	3.88	4.10	4.20	4.20
全 体	4.20	4.17	4.33	4.24	4.23 [*]

※…オムニバス科目は含まない。

※…表内各項目は小数点第3位以下を四捨五入しているため、それぞれの合計が必ずしも※とは一致しない。

同じような傾向を示した2018年度において、教員の年齢と授業の満足度の相関を試みた結果、統計的に負の相関を認めた（相関係数は-0.341で、危険率1%）。

本学における授業評価アンケートの結果からは、学生の満足度には、教員の年齢や職位だけではない、他の因子も関係していると思われる。少なくとも、「教員の年齢が高くなると授業の満足度が低下する」という短絡的な結論を出すことには慎重になるべきである。

4) 授業形態別による評価

①授業形態について

前項では形態にかかわらず授業評価全体の総括をおこなった。そして、評価全体としては前年比で著しく変化した項目は殆ど見られなかったが、「自己学習時間を確保した」は例年より高値になり、「積極的に意見や質問をした」は低値のまま変化はなかった。20年度は授業方法が、面接授業、遠隔オンデマンド、遠隔リアルタイム、オンラインと対面の組み合わせといったハイブリッドな授業展開となった。

次に授業形態別に見た授業評価についてまとめる。2020年度の授業形態は、「対面のみ」0.41%、「対面+遠隔」58.8%、「遠隔リアルタイムあり」18.7%、「遠隔オンデマンドのみ」14%、「その他」8.1%の比率であった。「対面」以外の何らかの遠隔授業が99.6%であったと言える。

②学科別の授業形態比率

表5に示すとおり、全体的には授業形態として多かったのは「対面と遠隔」、遠隔リアルタイム有り、遠隔オンデマンド、その他、対面の順であった。殆どの学科が対面と遠隔が首位であったが看護学科は遠隔リアルタイムが首位であった。学科毎に異なる学習要素と授業方法の選択が有ると思われるが、情報環境整備や教員のスキルも影響してくると考える。

表5 学科別授業形態

	授業形態 (%)					回答数 (名)
	対面のみ	対面と遠隔	遠隔リアルタイム有り	遠隔オンデマンドのみ	その他	
日本文学文化学科	0.3%	60.4%	10.3%	22.7%	6.2%	1171
心理学科	0.6%	71.0%	24.2%	4.0%	0.1%	991
こども発達学科	0.1%	56.1%	13.6%	30.1%	0.1%	956
国際学部	0.8%	57.3%	31.1%	8.1%	2.7%	1116
服飾造形学科	0.5%	45.8%	1.6%	20.7%	31.5%	813
健康栄養学科	0.0%	50.4%	0.4%	28.7%	20.6%	2501
家政福祉学科	1.1%	71.9%	12.1%	6.7%	8.3%	977
看護学科	0.7%	36.5%	50.9%	11.3%	0.5%	1139
全体	0.4%	58.8%	18.7%	14.0%	8.1%	13654

③授業形態による評価の違いの傾向と遠隔授業の課題

授業形態別に分けて質問項目全21項目の評価値をみると殆ど変化はなく同じような傾向を示していた。前項でも示したとおり、質問項目の中でも注視した「Q13 積極的に意見や質問をした」と「Q15 自己学習の時間を確保した」は形態別で見ても差はなかった。

表6に挙げた質問項目の最高値と最低値の差は、それぞれ「Q3 内容は知的刺激に富んでいた」は0.19ポイント、「Q13 積極的に意見や質問をした」0.5、「Q14 よく出

席・参加した」0.12、「Q15 自己学習の時間を確保した」0.2、「Q17 さらに勉強したくなった」0.19、「Q18 学びの目標達成に近づいた」0.24、「Q24 授業の総合満足度」は0.22ポイントであり殆ど差が無いと言える。これらの授業形態にはそれぞれ長短相補う必要があるが学生の授業評価という点からは差がなく、教員は限られたICT環境とスキルを活用して授業に取り組んでいたと考える。

従来授業は「対面」を前提に評価もおこなってきた。学生と教員は、多様な授業形態を経験して、今後、授業のハイブリッド化は進むと考える。Active Learning、e-Learning、Service Learning、PBL、反転授業、インターンシップなどの方法が混在し多くの教育コンテンツが蓄積されていくだろう。オンラインラーニングは標準となりそれを支えるマルチメディア教材作成のための支援室やインフラの整備が必要となってくる。

表6 授業形態による評価

質問項目	授業形態 (%)					全体平均
	対面のみ	対面と遠隔	遠隔リアルタイム有り	遠隔オンデマンドのみ	その他	
Q3. 内容は知的刺激に富んでいた	4.37	4.27	4.28	4.37	4.46	4.3
Q13. 積極的に意見や質問をした	3.67	3.41	3.71	3.71	3.91	3.56
Q14. よく出席・参加した	4.67	4.55	4.64	4.66	4.65	4.56
Q15. 自己学習の時間を確保した	3.97	3.89	4.02	4.09	4.08	3.96
Q17. さらに勉強したくなった	4.12	4.09	4.07	4.22	4.26	4.12
Q18. 学びの目標達成に近づいた	4.14	4.08	4.08	4.27	4.32	4.13
Q24. 授業の総合満足度	4.16	4.18	4.22	4.29	4.38	4.22

(2) 共通総合科目の課題

1) 共通科目（全学教育センター）の評価結果

①結果の概要

全学教育センターが所管する、「共通科目（外国語を除く）」「共通科目の外国語」「免許・資格科目（教職課程、博物館学芸員課程、司書・司書教諭課程）」について考察する。

②【共通科目】2020（R2）年度（後期のみ）の共通科目は延べ 3733 件（名）の受講があり、内 1798 件（48%）の回答が得られている。コロナ禍で、多くの科目が授業評価時には遠隔授業であり、回収率が2019（H31）年度の81%に比較して大幅に低下した。そのため直接比較することは難しいが、総合満足度は、4.22 で全体平均値と同値であった。2019（H31）年度の過去最高の満足度 4.27（+0.03 全体平均値との差）に比較するとポイントは減少した。遠隔授業への不満足の影響が大きいと考えられるが、2016年 3.99（-0.09）、2017年 4.11（-0.02）、2018年 4.11（+0.01）との比較では上回る満足度であり、専門科目の満足度と遜色ない状況も再確認された。教員は、慣れない遠隔授業においても、専門科目と同様に共通科目の運営に努力と工夫を重ね、一定の質を担保した授業運営であったと考えられる。全体平均値と比較して低い評価

であったのは、Q8(質問できる時間や環境)の-0.19、Q9(質問に対する対応)の-0.44、Q13(積極的に質問する)の-0.42と「質問」に関する設問であった。専門科目と違い、共通科目では面識のほとんどない他学科教員あるいは非常勤講師の科目が多く、遠隔授業での教員とのコミュニケーションの難しさを表した結果となった。また、例年と同様、Q15(自己学習の時間(2019は予習復習の時間))も専門科目に比較して低い評価であった。ただし、2019(H31)年度との比較では遠隔授業の影響により自己学習時間のポイントは大幅に増加している。新しく追加された和洋の学びの目標に関する6つの問いは3.76~4.02であった。Q20(基礎学力と文章力)3.87(-0.12)は、共通科目で身につけたい力であるが全体平均値より低く、以外にもこの中で高かったのはQ26(社会に役立つ専門力)4.02であった。今後も引き続き、調査を継続して観察していく必要がある。

③【外国語科目】外国語科目(英語)では、履修者は延べ1057件(名)、回答数が678件(64%)得られている。総合満足度は、4.26(昨年度比較+0.05)と遠隔授業であったにもかかわらず過去最高値を示し、全体平均値より+0.04上回った。これは特筆すべき結果である。2020(R2)年度後期は、国際学部以外のクラスはすべて遠隔授業で、一部の少数クラスを除きほとんどのクラスではZOOMシステム(オンライン会議システム)を用いた遠隔リアルタイムの授業が行われた。特に、Q5(理解度に合わせた進行)+0.27、Q8(質問できる時間や環境)+0.15、Q15(自己学習の時間)+0.10、Q12(教員の熱意)+0.09は全体平均を上回り、2019(H31)年度との比較からも対面の授業と同等かそれ以上に英語の授業に学生が熱心に取り組んだ様子が窺われる。特に、Q15(自己学習の時間)は、昨年度の2.09から4.06へと遠隔授業になり授業時間以外の自己学習時間は大幅に延長している。遠隔リアルタイムの授業は、英語学習に効果的な授業運営であったと考えられる。ただし、Q17(さらに勉強したい)は-0.24と全体平均値を下回り、英語を苦手としている学生の存在はこれまでと変わらない結果と読み取れる。

④【免許・資格科目】全学教育センターがマネジメントする教職課程科目、博物館学芸員課程科目、司書、司書教諭科目を抽出して免許・資格科目としてまとめる。総合満足度は2019(H31)年度に比較して+0.06高い4.29を示し、全体平均値を+0.07上回った。遠隔授業による負の影響は全く認められていない。資格を取得する目的意識が高い学生が受講している科目であり、初めて調査した和洋での学びの目標に関する6設問では、4.04~4.34と全体平均値をいずれも上回る高ポイントである。Q18(学びの目標達成)4.34(+0.21)、Q23(社会に役立つ専門力)4.33(+0.18)、Q22(課題を解決する力)4.24(+0.15)が高い結果である。その他、Q17(さらに勉強したい)4.31(+0.19)も高い評価である。学生における免許・資格を取得する目的意識と、教員による学生の資格取得に向けての熱意のある教育活動により、充実した授業運営が行われていたことが窺われる。

2) 評価からみた課題

遠隔授業の導入による学生の満足度の低下が最も心配されたが、大幅な低下は確認されなかった。一方、学生の自己学習時間の増加は、遠隔授業導入の副次的な効果として確認することができた。「外国語科目」では遠隔授業においても ZOOM システムの利用による授業運営により、対面の授業と同等あるいはそれ以上の授業運営であったことが確認できた。また、「免許・資格科目」においても、遠隔授業と対面授業を併用しながら、学生の積極的な学びと教員による充実した対応や教育活動により、学生と教員が創り上げる満足度の高い授業実践が行われていたことが推察される。特に、今回初めて質問した和洋での学びの目標達成に関する設問について、「免許・資格科目」において良好な結果を確認することができた。コロナ禍の困難な状況の中での教員と学生の努力と連携による良好な教育活動の実現に敬意を表したい。以上のことから、今後の授業運営では、状況が許せば対面授業を中心とした授業運営に戻ることを基本に、manaba course や動画配信など、構築したオンライン教材も有効活用して、反転授業や授業後課題など、遠隔授業の導入により身についた自己学習の習慣を継続させる工夫により、「共通科目」「外国語科目」「資格科目」をさらに充実した授業とし、学生の学び促進に繋げることを期待する。

(3) 専門科目の課題

[表 7] は 2020 年度の「授業の総合的評価」と、それに関わると考えられる項目について、学科ごとの評価平均値を示したものである。2020 年度は、アンケート項目の変更があり、それまでの「後輩に受講を勧めたい」が削除され、「Q. 17 さらに勉強したくなった」「Q. 18 学びの目標値に近づいた」を追加した。また、[表 8] は学科毎の評価平均値を降順に並べたものである。

①授業の総合満足度 (Q24, Q18)

「Q. 24 授業の総合的評価」については、国際学部 (4. 36)、服飾造形学科 (4. 29)、日本文学文化学科 (4. 28)、家政福祉学科 (4. 26)、心理学科 (4. 24)、と、ここまでが全体平均 (4. 22) より上であり、続けて、健康栄養学科 (4. 19) こども発達学科 (4. 18) 看護学科 (3. 97) の順となっている。2019 年度調査では、それまで 3 点台であったものがすべて 4 に上昇した。しかし 20 年度は看護学科のみが 4 を維持できなかった。

「Q18. 学びの目標達成に近づいた」は、服飾造形学科 (4. 23)、健康栄養学科 (4. 23)、こども発達学科 (4. 23)、家政福祉学科 (4. 19)、が全体平均 (4. 17) を上回っており、続いて、心理学科 (4. 16)、国際学部 (4. 12)、日本文学文化学科 (4. 11)、看護学科 (4. 09)、と続く。

②授業からの刺激と学びの動機付け (Q3, Q17)

「Q3. 内容は知的刺激に富んでいた」は、国際学部 (4. 38)、心理学科 (4. 38)、服飾造形学科 (4. 37)、日本文学文化学科 (4. 33)、が全体平均 (4. 32) を上回っており、健康栄養学科 (4. 31)、家政福祉学科 (4. 30)、こども発達学科 (4. 30)、看護学科 (4. 16)

と平均値以下である。

「Q17. さらに勉強しなくなった」は服飾造形学科（4.20）、国際学部（4.19）、こども発達学科（4.19）、家政福祉学科（4.18）、心理学科（4.16）、日本文学文化学科（4.15）、が全体平均（4.15）を上回っており、健康栄養学科（4.09）、看護学科（4.05）は下回っている。

③出席・参加について（Q14）

専門科目全体の平均は（4.61）、出席率の高かったのは、こども発達学科（4.67）、国際学部（4.66）、心理学科（4.62）、看護学科（4.62）が平均値（4.61）を上回っており、次の4学科、健康栄養学科（4.59）、家政福祉学科（4.58）、服飾造形学科（4.57）、日本文学文化学科（4.54）は平均値より低かった。従来、健康栄養学科を始め資格取得に直接結びついている授業が多い学科は「よく出席した」が高くなる傾向はあるため、学科同士を横断的に比較することは簡単には出来ない。しかし、[表2]の「Q3. 内容は知的刺激に富んでいた（0.42）」、「Q7. 説明が分かりやすかった（0.49）」といった出席率の高い学生が出席の低い学生より高い評価を与える項目の評価を高めるために授業への出席・参加率を上げて行く方向を各教員が模索することは意味のあることであると考えられる。

以上、専門科目の授業評価を①授業の総合満足度 ②授業からの刺激と学びの動機付け ③出席・参加という視点から見てみた。従来、これらの項目において上位を占めていた服飾造形学科、家政福祉学科の傾向は維持されている。前項でも述べたとおり資格取得や技術習得に特化した科目は学修の目標も明確で学生には取り組み安いと思われる。

しかし、国際学部、心理学科、日本文学文化学科やこども発達学科が「知的刺激」「総合満足度」「学びの目標」において高い得点を示したことは、ここ数年の授業改善が進んでいると考える。

表7 学科毎の評価平均値

	Q3内容は知的刺激に富んでいた	Q14よく出席・参加した	Q17さらに勉強しなくなった	Q18学びの目標達成に近づいた	Q24授業の総合満足度
日本文学文化学科	4.33	4.54	4.15	4.11	4.28
心理学科	4.38	4.62	4.16	4.16	4.24
こども発達学科	4.3	4.67	4.19	4.23	4.18
国際学部	4.38	4.66	4.19	4.12	4.36
家政福祉学科	4.3	4.58	4.18	4.19	4.26
服飾造形学科	4.37	4.57	4.2	4.23	4.29
健康栄養学科	4.31	4.59	4.09	4.23	4.19
看護学科	4.16	4.62	4.05	4.09	3.97
平均	4.32	4.61	4.15	4.17	4.22

表 8 学科の評価平均値順位(降順)

Q3 内容は知的刺激に富んでいた(学科降順)		Q14 よく出席・参加した(学科降順)		Q17 さらに勉強したくなった(学科降順)		Q18 学びの目標達成に近づいた(学科降順)		Q24 授業の総合満足度(学科降順)	
心理学科	4.38	こども発達学科	4.67	服飾造形学科	4.2	こども発達学科	4.23	国際学部	4.36
国際学部	4.38	国際学部	4.66	こども発達学科	4.19	服飾造形学科	4.23	服飾造形学科	4.29
服飾造形学科	4.37	心理学科	4.62	国際学部	4.19	健康栄養学科	4.23	日本文学文化学科	4.28
日本文学文化学科	4.33	看護学科	4.62	家政福祉学科	4.18	家政福祉学科	4.19	家政福祉学科	4.26
健康栄養学科	4.31	健康栄養学科	4.59	心理学科	4.16	心理学科	4.16	心理学科	4.24
家政福祉学科	4.3	家政福祉学科	4.58	日本文学文化学科	4.15	国際学部	4.12	健康栄養学科	4.19
こども発達学科	4.3	服飾造形学科	4.57	健康栄養学科	4.09	日本文学文化学科	4.11	こども発達学科	4.18
看護学科	4.16	日本文学文化学科	4.54	看護学科	4.05	看護学科	4.09	看護学科	3.97
平均	4.32	平均	4.61	平均	4.15	平均	4.17	平均	4.22

表 9 参考 2019 年度学科の評価平均値順位(降順)

学科 (降順)	Q19. 授業の総合的満足度	学科 (降順)	Q18. 受講を後輩に勧めたい	学科 (降順)	Q17. さらに勉強したくなった
服飾造形学科	4.36	健康栄養学科	4.25	家政福祉学科	4.3
健康栄養学科	4.33	服飾造形学科	4.24	服飾造形学科	4.19
家政福祉学科	4.32	国際学科	4.11	健康栄養学科	4.14
日本文学文化学科	4.27	家政福祉学科	4.09	国際学科	4.1
国際学科	4.27	こども発達学科	4.09	こども発達学科	4.03
こども発達学科	4.24	心理学科	4.06	看護学科	4.02
心理学科	4.22	日本文学文化学科	4.04	心理学科	4.02
看護学科	4.12	看護学科	4.03	日本文学文化学科	4.01
全体平均	4.24	全体平均	4.09	全体平均	4.03

4. 資料

2020年度後期授業評価アンケート設問

		強 く 思 い 入 り た	思 い 入 り た	こ ま ま 思 い 入 り た	思 い 入 り な か ら な い	全 く 思 い 入 ら な い	該 当 し な い ・ 答 え た く な い
Q1	この科目の授業開講方法を選択してください ①対面授業のみ ②対面と遠隔授業の併用 ③遠隔授業のみリアル タイムあり ④遠隔のみオンデマンドのみ ⑤その他	-					
Q2	この授業はシラバス（変更したシラバスも含む）に沿っていた	5	4	3	2	1	0
Q3	この授業の内容は知的刺激に富んでいた	5	4	3	2	1	0
Q4	この授業で新しい知識・技術を学べた	5	4	3	2	1	0
Q5	教員は学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めた	5	4	3	2	1	0
Q6	教材（配布資料、動画、音声、パフボなど）が理解に役立った	5	4	3	2	1	0
Q7	教員の説明がわかりやすかった	5	4	3	2	1	0
Q8	教員へ質問できる時間や環境があった	5	4	3	2	1	0
Q9	教員の質問への対応が適切だった	5	4	3	2	1	0
Q10	出席確認の方法が適切であった	5	4	3	2	1	0
Q11	この授業の運営時間、学習量が適切だった	5	4	3	2	1	0
Q12	この授業から教員の熱意を感じた	5	4	3	2	1	0
Q13	自分自身もこの授業で積極的に意見や質問をした	5	4	3	2	1	0
Q14	この授業はよく出席・参加した	5	4	3	2	1	0
Q15	この授業では予習・復習などを含め自己学習の時間を確保した	5	4	3	2	1	0
Q16	この授業のレポートや試験に積極的に取り組んだ	5	4	3	2	1	0
Q17	この授業から新たな興味や関心が生まれ、さらに勉強したくなった	5	4	3	2	1	0
Q18	この授業により、自身の大学での学びの目標達成に近づいた	5	4	3	2	1	0
Q19	この授業により、「自分を知り誇りを持つ力」が向上した	5	4	3	2	1	0
Q20	この授業により、「基礎学力と文章力」が向上した	5	4	3	2	1	0
Q21	この授業により、「人を理解し自分を表現する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
Q22	この授業により、「課題を解決する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
Q23	この授業により、「社会に役立つ専門力」が向上した	5	4	3	2	1	0
Q24	あなたのこの授業に対する総合的な満足度を示してください ⑤大変満足 ④やや満足 ③どちらでもない ②やや不満 ①不満 ⑥該当しない・答えたくない	5	4	3	2	1	0
Q25	この授業についての意見・感想・希望等あなたが思っていることを できるだけ具体的に何でも入力してください	自由記述					

令和 2(2020)年度 授業評価アンケート報告書

令和 4(2022)年 1 月

編集 和洋女子大学 大学評議会

担当 刀根洋子 湊久美子

発行 和洋女子大学

〒272-8533 千葉県市川市国府台 2-3-1

TEL 047-371-1111